

特56

514

名家手簡

五集下

254

73







五ノ廿二  
五ノ廿三  
五ノ廿四  
五ノ廿五  
五ノ廿六  
五ノ廿七  
五ノ廿八  
五ノ廿九  
五ノ三十

五ノ廿一  
五ノ廿二  
五ノ廿三  
五ノ廿四  
五ノ廿五  
五ノ廿六  
五ノ廿七  
五ノ廿八  
五ノ廿九  
五ノ三十







桂山彩巖

名義樹字君華別号天水漁者称三郎古唐門江戸人

林惣守門人仕 大府寛延二年七十二没 達原堂藏

五ノ下四

桂山彩巖

名義樹字君華別号天水漁者称三郎古唐門江戸人  
林惣守門人仕 大府寛延二年七十二没 達原堂藏

与心 敬奉 奉送 了 了 了 了

少 少 少 少 湖 云 奉 送 了 了

与 与 与 与 与 与 与 与 与 与

一 入 及 少 少 少 少 少 少 少 少

一 筆 迹 之 仕 仕 仕 仕 仕 仕 仕 仕

越 克 敏 敏 敏 敏 敏 敏 敏 敏 敏 敏



河出清安以垂其德

一考之於此法事之理也

之出上其化二首出焉

多之如古來一能然初後

之出上其化二首出焉

多之如古來一能然初後

之出上其化二首出焉

不棄汝玉祝仕以出請律

之清新雅練至今不類

感神以相又序中書卷

之知之忘忘事也歌知

音也水向地再歸以離地



小技却。友整保。可從  
主括。義。海。因。一。數。名  
今。更。不。及。聲。後。書。方  
終。身。均。有。情。景。景。名  
修。一。通。江。舟。披。湖。雲。泰

以。修。任。公。身。一。身。身。身。調  
文。字。一。身。身。身。身。身。書  
之。公。用。身。身。身。身。身。身  
林。涼。身。身。身。身。身。身  
洪。先。身。身。身。身。身。身



夜如那長志恒憐之

桂山堂

六月廿四日

養村五

安積老牛橋

澁井大室

名孝德字子章稱平左衛門江戸人井蘭堂門人  
仕作倉疾天明八年六十九没

阿彌陀佛  
此は徳公の御遺徳を慕ひて  
月夜に於て静かに  
のりて  
一山ありて  
此は徳公の御遺徳を慕ひて  
月夜に於て静かに  
のりて



一、その日たまたまの故よりなすべし

一、所行の故に於て其の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後

一、此の事の上の御事難なる後







忘孩子與樹  
著自國書人感  
吃不少苦可  
早自練了

食口之味  
如此能令  
趨。夢。心  
今之文人



俗に出来たり  
俗物と云ふ者  
しぬる心感  
俗に向面成

出たる心感  
心と云ふ者  
かたが世なる  
る相成り



秋之良于如  
 也了致生  
 夜并誘雁初共候

佐十竹

初投妙心寺為僧名祖淳後歸儒改名宗淳  
 字子朴稱介三郎仕水府元禄十一年五十九没

不書致終之志都分事  
 亦用姑无指下也  
 一大事平也  
 着福



地洞探...  
上...  
下...  
上...  
新...  
新...  
新...

下...  
下...  
下...  
下...  
下...  
下...  
下...



多部之旨之書

此致

正月

卷

中村新八郎

一

細井平洲

名徳民字世馨又号如来山人称其三郎尾洲人仕園侯享和元年七十四没

九江藏

定海原之安

名徳民字世馨

又号如来山人

称其三郎尾洲人



のこ集り御集り  
瑞雲のなるこ集り  
の集り御集り  
しるす集り  
しるす集り  
うの集り

しるす集り

しるす集り

しるす集り

加者分御集り







抱鶴多しおしり白津川

たのしみありてちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

詩人の心は

傷をよみてなむる物なきを

其言ふ方角に絶えては

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき

あつちりちりかき



少能為伴し心は海東  
 不し暮るも母傳の時  
 草一之友  
 貞吉  
 丁卯年  
 中北茶中後人

関南樓

名其寧字子永称源藏本姓横山為鳳岡義子  
 寛政十二年六十八没  
 家藏

以之の啓上は  
 新なるを  
 心あるを



よのろくはらんと  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは

五下廿

あまのこゝろは  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは  
あまのこゝろは



八月廿七日

梅溪先生家書

二

五下十九

松山天燒

名敬和字伯義林源藏始学九卓後学三王  
天明三年五月八日

全

手自寫之書  
用之者宜  
知之所由  
目之所及  
氣之所通



廿二日  
廿三日  
廿四日  
廿五日  
廿六日  
廿七日  
廿八日  
廿九日  
三十日

正日  
松山深野

余嘗聚今古名人書牘者廿餘年  
於茲矣篋中所積殆至數千卷通  
但其書率皆取膠牘通譯同不遺  
施之於家人朋友之際是以其用筆  
叙事不用意而逸之柔能探奇愛  
乃出使人想見名人彙字曾懷於  
取百末之後為兩忘下書終前時  
展而閱之亦排胸遣愁之一助也遂



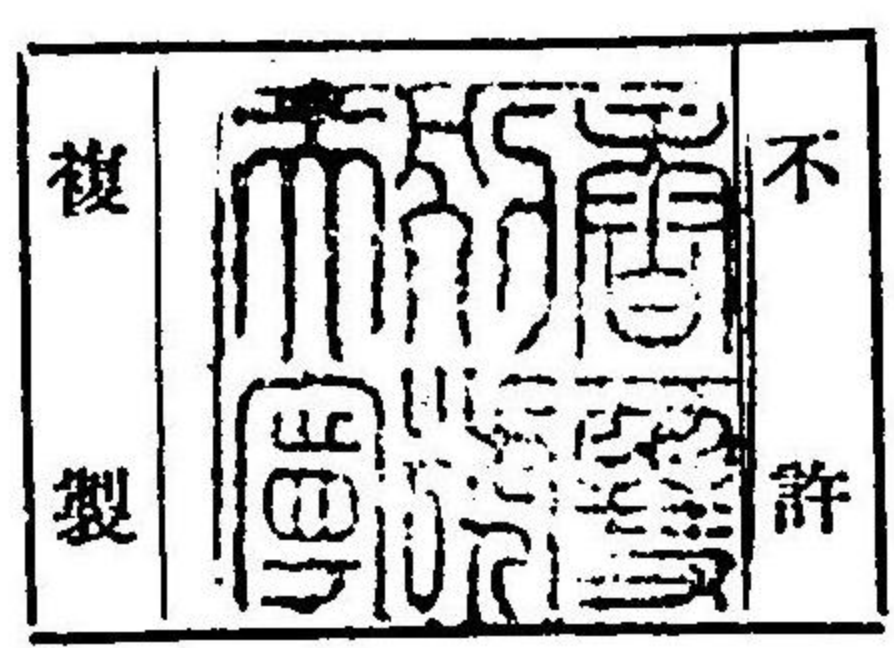
254  
73

發賣所

柳原文盛堂

電話浪花三三二二番  
振替口座東京三〇九〇番

東京市日本橋區鐵砲町



明治四十二年四月一日印刷  
明治四十二年四月五日發行

著者 故山 內 香 雪

發行者 東京市日本橋區濱町一丁目十八番地 山 內 昇

印刷者 東京市日本橋區鐵砲三番地 柳 原 友 吉

彫刻者 東京市淺草區向柳原町一丁目廿八番地 岩 部 元 雄

手親獲物上諸木以貽同好嗚呼  
是亦不藝林一案事哉

天保十三年辛丑石榴花開月

香雪山音織



書中係交游中所獲者

銀香性氏以別家藏

香雪山音織





